

新規参入した梨栽培に期待 ～アルファイノベーション(株)の事業展開～

産業建設常任委員会

5月8日 アルファイノベーション(株)

本市下大崎地内に本社を置くアルファイノベーション(株)は、平成23年12月に設立され、翌年2月から青ネギの生産を開始して以降、ネギ類を中心に事業拡大を続け、4年1月からは、後継者不足で生産量が減少している本市特産品の梨の生産を開始した。また、グループ企業として平成25年5月に特定非営利活動法人めぐみの里を開設後は、農業生産・障がい者就労支援・生産物等の流通を合わせた「農・福・商連携事業」を展開し、独自の事業モデルを構築している。



今回の視察では、柴山地内にある同社の梨・ネギの圃場と本社エリアの冷蔵倉庫・出荷調整作業場を見学し、その後、同社が取り組む

事業の内容等について説明を受けた。

本視察を通して、同社が本市に根を下ろし、努力されている状況が伺えた。同社は、農業に新しい流れをつくるとともに、障がい者が働きやすい社会環境づくりにも寄与している。

現在、梨農家の高齢化等により梨の生産量が減少する一方、「白岡美人」のブランド化によって白岡産の梨の需要は高まっている。「低樹高ジョイント仕立て」という新たな栽培方法の導入や、圃場の除草作業をロボット化する等の同社の画期的な経営と、従来の農家により培われてきた慣行栽培の生産技術の融合で、本市特産品の梨の生産量が拡大していくことを期待する。

結びに、市には、各種施策を通じて、本市を拠点として活躍する企業に対する積極的な支援を求める。

組合議会報告

蓮田白岡衛生組合議会

5年中は、定例会が4回、臨時会が1回開催され、人事案件2件、条例関係3件、予算関係4件、決算認定1件を審議し、いずれも原案のとおり同意、可決、認定した。

5年度の組合で受け入れたごみの総量は、30,313トン(うち資源物の収集量は3,774トン)。その後、中間処理を経て、資源化した量は7,584トン(受け入れたごみの総量に対するリサイクル率は25.0%)、最終処分場埋め立て量は699トンであった。

埼玉葛斎場組合議会

5年中は、定例会が2回開催され、人事案件2件、条例関係6件、予算関係4件、決算認定1件、議員提出議案の条例関係1件、条例の制定に対する附帯決議1件を審議し、いずれも原案のとおり同意、可決、認定した。

5年度の組合内の火葬実績は、合計で4,519体(大人4,468体、子ども7体、死胎等44体)で、うち白岡市は大人575体、子ども0体、死胎等6体。組合外の火葬実績は総数で648体。

小動物合同葬実績は、組合内1,043頭、組合外79頭。小動物単独葬実績は組合内735頭であった。

埼玉東部消防組合議会

5年中は、定例会が2回、臨時会が2回開催され、人事案件3件、条例関係9件、予算関係4件、財産取得4件、決算認定1件を審議し、いずれも原案のとおり同意、可決、認定した。

5年中の組合内の火災は218件で、うち白岡市は建物10件、車両3件、その他13件。救急出動は、組合管外を含めて26,346件で、うち白岡市は2,823件。搬送人員は、組合管外を含めて23,574人で、うち白岡市は2,564人。救助出動件数は、組合管外を含めて493件で、うち白岡市は46件であった。